

2002.9.9

B T 研究開発の重点事項

味の素(株) 西山 徹

国民のQOL向上にバイオテクノロジーが貢献するには、まず第一に生活習慣病などの病気の治療と予防において革新的な進歩が必要である。さらに、持続的な資源循環型社会実現のためには環境問題の解決も重要である。しかし、いかに先端技術を産業化に結びつけようとしても国民の理解が得られない状態では実現は不可能と考える。国民の視点に立って、バイオテクノロジーが安心・納得されて社会に導入されるように環境を整えることが大切である。

今回のB T研究開発プロジェクトチームの検討課題である重点化すべき研究開発及び基盤整備等に向け、次のことを提言したい。

1 . 健康栄養科学の推進による健康寿命の延伸

健康な社会生活を営むには、病気を治療するための医療や医薬の領域が重要であることは論を待たないが、病気を予防するための医療や食品のもつ健康維持・増進効果も重要と考える。疾病の診断・治療領域と疾病予防・健康増進領域は密接な関係を持つことから、これらを併せ持ったトータルヘルスケアとしてQOLの向上を図るべきである。

特に日本が世界に先駆けて提唱した機能性食品は世界の健康栄養科学分野をリード出来る可能性を持っており、戦略的に強化すべき分野である。

SNPs、Nutri-genomicsなどの先端技術を活用して健康な状態から疾病に至るまでのプロセスを解析し、先行病態を定義付けるバイオマーカーを特定する。

簡便に先行病態を測定できるようなバイオマーカー測定キットを開発する。個々人の食習慣、ゲノム情報、バイオマーカーの変動などと、疾病との関係を明らかにするような疫学的統計データの収集とその応用を図る。先端技術を活用し、天然素材中の疾病予防因子を探索するとともに評価系を確立する。

医・農連携により健康栄養科学研究体制を強化する。

個人の医療・健康情報を統合した高度健康情報ネットワークを構築し、活用する。

特保制度コンセプトの明示や上級特保制度新設などにより、一般健康食品との差別化を図る。

2 . グリーンミストリー-の推進による循環型社会の実現

地球の生態系に大きな影響を与える環境問題はいまだビジネスとして見えにくい点が多いが、循環型社会実現のためには先進国である我が国が率先して研究しなければならないテーマである。

生分解性プラスチックやバイオマスエネルギー等のビジネス化に向けた課題を整理し、有望技術へ重点投資をする。

グリーン税制、グリーン調達制度により実用化を推進する。

地方自治体を中心とした地域毎のリサイクルネットワーク体制を推進する。

3 . 遺伝子組み換えなどの新技術に対する国民の理解の増進

バイオテクノロジーの成果を産業化に結びつけるには国民の理解が必須である。根拠となる科学的データの集積、安全・安心の担保と共に、先端技術のベネフィットとリスクを個人で判断できるように知識レベルを底上げすることが必要である。

安心・安全に対する国民の信頼を獲得するために、各省庁から独立した、信頼される安全性研究所及び審査機関を設置する。

わかりやすいコンテンツを作成する。

多様なネットワークを利用して、メディア・消費者と産官学との相互理解を推進する。